

平成 26 年 度



第 3 号

練馬区立旭丘中学校：発行 6月

人を許すこと

校長 山谷 安雄

「お互い様」という言葉があります。日本人らしく、私の好きな言葉です。例えば、子どもが、乗り物の中や多くの人が集まるところで、泣いてしまったとき、騒いでしまったとき、親の立場で何とかしないといけない、迷惑をかけてはいけないと思い、子どもをあやしたりしかったりしました。周りの冷たい視線を感じながら奮闘しているとき、「お互い様」と言われたときどれだけ救われたでしょうか。

日本人は、人を許すことに寛容な民族です。けんか両成敗だとか、罪を償うなど、いろいろな言葉があります。しかし、もし、自分がある行為のために、相手から許されず謝罪が受け入れられなかったら、そして、違う場面で同じ様なことをされたときに、その人を許せるでしょうか。きっと、同じ思いを相手にぶつけて心のバランスを取ってしまうでしょう。逆に、絶対許されないこととして、相手が許してくれたら、きっと自分がされたときに許すことができると思います。社会全体が、許す人が多ければ、自分は許そうという気持ちになります。しかし、最近、他人を許せない人が少しずつ日本で増えてきた気がします。過剰な自己主張をする人や周囲を顧みず身勝手な人が増えた結果だと思っています。私の町内会のおたよりも「お互い様」の気持ちをもって、・・・と言うことが書かれています。人を許す気持ちと余裕を見直してみたいです。

ふと、南アフリカのマンデラ氏を思い出しました。南アフリカでは、第二次世界大戦後アパルトヘイト（人種隔離政策）によって多くの有色人種が差別され、時には殺されました。南アフリカで人種差別撤廃の運動が起こり何十年にもわたり戦いが続きました。多くの犠牲を払い、ついに黒人が白人社会に勝ち、マンデラ氏が大統領になりました。当然、復讐が始まると全世界の人は思いました。今まで、差別し同胞を殺されたのだから、白人社会の人たちは、恐怖と国から逃れることを考えたのは当然の成り行きだと思います。しかし、マンデラ大統領は「憎しみは憎しみしか生まない。」という論理で融和政策をとり、現在の南アフリカを作りました。もし、復讐をしたら、憎しみが憎しみを生んで、多くの犠牲者をだし、国は疲弊してたでしょう。マンデラ氏はこの後、ノーベル平和賞を受賞しました。「憎しみは憎しみしか生まない。」人を許すことで、多くの命を助けたことになります。しかし、マンデラ氏以外の人が出たら、きっと実現しなかったでしょう。マンデラ氏の政治力と人柄なのでしょう。

《生徒の活動の様子》

運動会 5月31日（土）本校グラウンド



好天の中、本校のグラウンドで運動会を実施しました。「NEVER GIVE UP」をスロ



【3年女子ムカデ】 ーガンに各クラス望みました。今年は、〇〇君が頑張ったのではなく、旭中生の全員が全力で競技したすがすがしい運動会でした。



【3年男子オオムカデ】

修学旅行 5月17日（土）～19日（月）京都・奈良方面

天気にも恵まれ、3日間を過ごしました。大変すばらしい態度でどこに出しても恥ずかしくない生徒達でした。気温も上がる中で、目的をもって見学していました。



今年は、1日目に琵琶湖湖畔の宿に泊まり2日目の朝、船で大津まで出て、電車に乗り換えて京都に向かいました。



【法隆寺】

全員が船のデッキの上で、琵琶湖の景色と空気を楽しみました。

【雄琴から大津の船上】

《これからの行事》

6月17日（火）～20日（金）D組 移動教室 軽井沢方面

6月25日（水）～27日（金） 定期考査 I

1年生は初めての定期考査です。準備をしておきましょう。